

5N-3

MIDI 楽器を利用した音楽情報処理

伊与田光宏、岡田孝二、小林健一郎、千葉一夫
(千葉工業大學)

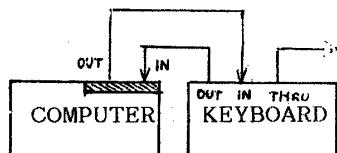
はじめに

近年、キーボード・シンセサイザ等、電子楽器が多数かつ安価に市販され、その効率化によるMIDI機能の開発が進んでいます。これらは、MIDI (Music Instrument Digital Interface) によって、楽器とコンピュータの結合システムを構築し、音楽に関する情報を効率的に処理する機能です。この技術は、楽曲制作や音楽制作において大きな影響を与えています。

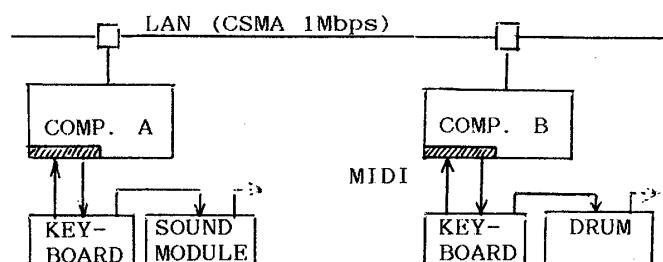
M I D I 錠器利用の得失

多層音楽ネットワークの構築

アのて間、
タリ理しのち、
インシ処介5即
イののを1。
るIでスーる。構続各D有大図
すDタ一1ある。に接。I共膨を
続I一エはでな図りMを、上
接Mユフに能に2より、した向
をれビ一器可と第にさり出まの度
とサンタ楽がこ。N許よび。
器臓コン各奏るたAがに呼る速度
楽内どイ。演れしL続式やき理
Iがな、るた建築型接方存で処
D Uるにれっ成構スの本保が、
IPすうさな形をバで。のとせ
MC加よ続異がクにまるタこさ
とは付す接にク一更台き一る散
タにを示がと一ワ、4でデす分
一スタに器ごワトが6が楽築に
ユ一図樂ストッ士、ス音構列
ピエデ1のレッネ同でセ、を並
ンフ間第台ドネ樂タクしたスに
コ一時、数アア音一Mbpsアまータ
ルタ、常複、リ層ユ1有。ベ一
ナンり通はきエ多ピは共るタユ
ソイた。たでル、シ度にな一ビ
一。する。まがカしコ速ルとデン
バる換い、と一張た送イ能樂コ
ン、い変て台こロ拡れ転ア可音の
てでにれ1るのにさ、フが、数
しん号らにて種更続Aク続り複
応進信えタ当一を接MS接まを
対もル備一りで念がSイ隔つ算
電スをるコレIはD方サ困行対あし呼
百の一号すのDらINははしにでとを
テ開ラ能ビを器の樂はバなる。、出
子のパ機ンス樂こI式一難えする。てひ
器フル軽1でM筆。L一けに一可実そ



第1回



第 2 回

Processing of Music Using MIDI Instruments.
Mitsuhiko IYODA, Kouji OKADA, Kenichiro KOBAYASHI,
Kazuo CHIBA (Chiba Institute of Technology)

音楽処理例

さのくよ
市るが語
がいと言
アてこCに
エしるは
ウ現あら
ト実で者
フを開筆
ソ示公、
対譜がこ
器楽式そ
ラム樂の形
Iタ部るグ
ラム樂の形
D一内いロ
Iデのてブ
Mやタつ用
用生一な応
タ再デと、
ユ音困更に
一・樂難コネ
ルンに成る
ナヤタら作
ンルけ理した
ピ錄るが。
ソチ一かを説
機械概た
チュ語ム概た
パルビ言ラにし
からマン級グ下現
か、コ高ロ以実
数にし汎理でム
に、中か処のラ
FORTRAN等
現在ある。し
基を本試本
析基を本

(1) 音楽データのリアルタイム取り込み:

- (2) 自動演奏：データから楽器へデータを送信し、演奏を行わせる。プログラムチェンジにも対応している。

(3) 音楽データの編集：コンピュータのメモリ上で音楽データを作成したり、修正できるようにする。

(4) データの保存：音楽データをディスクファイルに保存する。LAN利用時には、共用ファイルへの保存を可能にしている。

(5) データの呼び出し：保存された音楽データをディスクファイルから呼び出す。共用ファイルからの呼び出しに対応している。

(6) インボイスメタデータ：コントロールノームを鳴らす。拍子の種類（2、3、4など）とテンポによって演奏時間が決まる。内蔵のメトロノームを鳴らす。拍子の種類（2、3、4など）とテンポによって演奏時間が決まる。

おわりに

参考文献

「生体情報と」 1 / f ゆらぎ 武者利光、応用物理、第54巻、第4号、429頁

```

-1 -1 -1 -1 -1 -1 -1 09 90 2F 69 -1 -1 -1 -1 -1 OF 2F 00
-1 -1 -1 13 2F 69 -1 -1 -1 -1 -1 -1 OF 2F 00 -1 -1 -1 -1 -1
-1 -1 -1 -1 -1 -1 -1 -1 -1 32 32 5F -1 -1 -1 -1 -1 OB 32 00 -1 -1 -1
13 32 5A -1 -1 -1 -1 -1 -1 -1 OF 32 00 -1 -1 -1 -1 -1 -1 -1 -1

```

第3圖

第4図

